

## 令和2年度事業計画書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

### 事業計画のポイント

---

2020年度のFAJは、ワクワクな改革が動き始め、ファシリテーターの「ターミナル」を目指します。

・ファシリテーションの更なる普及のため、現場実践から未来のファシリテーションを創造します。

・社会課題に挑むファシリテーターと共に活動を進め、ファシリテーションの可能性を広げていきます。

---

日本ファシリテーション協会 (FAJ) は、ファシリテーションの普及を通して自律・分散・協働型の社会を目指すNPO団体です。FAJのこれまでの活動もあり、日本各地でファシリテーションの認知度は高まっています。その中で多くの会員が、FAJ内外でファシリテーションを学び、ビジネス、行政、地域コミュニティ、災害復興、教育、医療、福祉などの現場で課題に向き合って活用しています。

昨年度の原点を見つめ直す活動の中で、FAJは、自律分散ネットワーク型の社会の到来を予測し、ファシリテーターの実践コミュニティとして創設されたことを再確認しました。創設以来FAJは、全国に支部やサロンを広め、また様々な分野との掛け合わせを進めていく中で、ファシリテーションの普及と探究を16年間進めてきました。各現場にインパクトを届け、継続的な全国での調査研究活動や、各種イベントでの実績を持つ、まさにファシリテーションのナショナルセンターといえる団体です。

では、これからのFAJは、社会に対して何ができる団体になっていくのでしょうか。

これまで私たちの目指してきたファシリテーションの普及が、その良さを伝えることで、「ファシリテーションを知っている人を増やす」ことだったとすれば、これからの私たちの役割は普及の次なる形として、それぞれの現場での実践、本質の探求、社会課題の解決を通じて「ファシリテーションの有用性を示していく」ことではないでしょうか。

ファシリテーターひとりひとりが主役(当事者)となり、普及のあり方を「ファシリテーションを」から「ファシリテーションで」へ転換を図ることで、FAJの物語を再構成していきます。

まずは、本質を求めること、結果を残すこと、可能性を広げることに重点をおきます。

そして、ファシリテーションが社会でリアルに役立つために、FAJがファシリテーターズ・ターミナルとなることを目指して、引き続きワクワクな改革に取り組み、実践を始めていきます。

#### ■ ファシリテーションの更なる普及のため、現場実践から未来のファシリテーションを創造します。

新たな全国イベントの形として「ファシリテーションサミット」をスタートし、ファシリテーションのこれからの形を内外のファシリテーターとともに創造していきます。また、各地の定例会、イベントでの研究、交流や、各会員の現場での成果を全国の会員が共有することで相乗効果を生み出していきます。

#### ■ 社会課題に挑むファシリテーターと共に活動を進め、ファシリテーションの可能性を広げていきます。

引き続き、社会課題の解決に取り組む会員同士が学びあうことに加え、外部の協働パートナーとのコラボレーションにより、社会へのインパクトの相乗効果を高めます。その成果を対外的に発信することで、ファシリテーションの可能性を社会に対して伝えていきます。

以下、重点的に取り組む内容を事業別に記します(括弧内は担当組織を表します)。

## 1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

調査・研究事業では、FAJ内外の連携を深め、引き続き、課題解決に取り組む会員同士が学び合うことを目的に、実践力の相互研鑽の場をつくっていきます。また、新たな全国イベントとして「ファシリテーションサミット」をスタートします。

### 1) 実践力の相互研鑽の場作りの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- 定例会や例会においては、「学び」と「実践」双方の視点からファシリテーションについて探究する場を開催、実施します。プロジェクトにおいては、テーマの特性を踏まえた調査・研究を行います。調査・研究した結果については振り返りや成果発表を実施することで、学びを深め実践につなげます。
- 新たな全国イベントとして、ファシリテーションに関わる「頂点にいる人、頂点を目指す人が集まる場」をイメージし「ファシリテーションサミット」を実施します。

### 2) ファシリテーションの本質を探究(理事会、イベント実行委員会)

- 立場・環境・地域・世界など様々な壁を乗り越えるための対話の場として、ワールドカフェが25周年を迎える今年度内に「ザ・ワールド・カフェ」をテーマとした今までの枠を超えたイベントを開催し、ファシリテーションの知見を深め本質の探究につなげます。

## 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

教育・普及事業では、これまで提供してきた公開セミナーをより広く展開できるように、継続強化するとともに、公開セミナーの新たな事業である「実践編セミナー」をリリースします。

### 1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- ファシリテーションの普及のため全国各地で公開セミナーを開催します。
- 今後も質の高いセミナーを継続的に開催できるよう、講師の増員、レベルアップを推進するとともに、セミナーコンテンツを継続的に改良します。
- セミナー・サポートセンター(SSC)が中心となり、地域を越えて相互協力し、セミナー運営の効率化を図ります。

### 2) 公開セミナーの新たな展開の検討(公開セミナー委員会)

- 公開セミナーの「実践編セミナー」をリリースし、2クラス程度を実施予定です。また集客状況や受講者の評価も踏まえながら、来年度以降の開催規模(地域・回数)の拡大を目指し、検討を行います。

## 3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

社会課題の解決や新しい社会の創造に関わる様々な個人・団体の要請に対して、ファシリテーションを活用した支援を行います。

### 1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- 行政・各種団体・NPO・学校・企業等の多様な分野から寄せられる様々な相談や依頼に対し、抱えている課題やニーズを丁寧にヒアリングし、会員を適切にコーディネートすることで、ファシリテーションを活用した支援を行います。
- 教育分野の案件に対しファシリテーションをより良く届けて行くために、過去の知見を整理し報告するなどして、支援リソース(人、ノウハウ、コンテンツ)を充実させます。

### 2) 災害復興・防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 災害復興・防災・減災の分野において、ファシリテーションを活用した支援や支援人材の発掘・育成、学び合いをFAJ内外で行います。
- これまでFAJが支援してきた団体や地域を中心に復興支援のプロセス等の調査を行い、今後の支援活動に役立てます。

### 3) 支援活動への理解の促進(ファシリテーションサポート委員会、災害復興委員会)

- FAJ内外に向けて、報告書や報告会、SNSなどで委員会の活動の効果・意義を広く伝えます。

#### 4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

交流・親睦事業では、各種イベントや関連団体との交流を通じて、FAJ内外のつながりをさらに深めます。

##### 1) 地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)

- 各支部におけるイベントの開催により、地域に根差した交流を深めます。さらに地域を跨いだイベントも開催することで、地域内外を通じてより開かれた交流を図り、ファシリテーションの普及と探究を一層促進します。

##### 2) 国境や文化・言語を越えてつながる交流・親睦活動の強化(グローバルファシリテーション推進委員会)

- FAJ会員を2020年10月のIAFストックホルム大会に派遣し、FAJのグローバル活動の幅を拡げ、強化します。併せてFAJ内外に知見を提供します。
- グローバル社会に向けたファシリテーションへの活動の可能性をさらに拡げ、様々な実践に移していきます。

##### 3) 他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会)

- IAFをはじめとするファシリテーションの普及・研鑽に関わる団体と、協働パートナーとしての活動を進めます。
- 各分野で活動している外部団体とファシリテーションを軸にコラボレーションを進めます。また、FAJ外部のファシリテーターとの連携を深めます。

#### 5 広報・コミュニケーション活動

ファシリテーションのインパクトをより効果的に社会に伝えるとともに、将来の会員や支援先、協働パートナーにFAJのミッションや活動を発信するための広報をより強化して展開します。また、会員相互のコミュニケーションの充実を図ります。

##### 1) 広報優先順位の策定と発信の強化(理事会、広報委員会)

- FAJ内外それぞれの違いを意識したものとします。特に外部に向けた広報を重視し、スピード感を持って発信できる仕組み作りをします。
- ニューズレターやWeb、SNS、ブログなど、ターゲットに合わせて効果的に発信できる手法を検討します。

##### 2) FAJ活動を内外に発信する広報活動の実施(広報委員会)

- FAJ内には、会員であることの価値や、会員同士のコミュニケーションを意識したものにします。
- FAJ外には、入会者やコラボレーションの相手を増やすこと、ファシリテーションの本質を求めること、実践事例を伝えること、可能性を広げることを意識したものにします。
- FAJが社会課題に挑むファシリテーターと共に進める活動や、FAJ内外のファシリテーションに関する知見や、会員それぞれの現場での実践事例を、意欲的に収集・発信していきます。

#### 6 ミッション及び組織運営に関わる活動

未来のFAJの姿を描きながら、法人として持続可能で確実な運営と組織のあり方についての対話と議論をさらに進めていきます。

##### 1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)

###### 1)-1 組織のあり方の検討

- 組織がおかれている現状を踏まえて、ビジョン3.0を再確認し、ビジョンの検討を始めます。
- 「協働」と「共創」をキーワードとする新たな活動の調査とプロトタイプの実行を実施します。

###### 1)-2 組織運営のやり方の検討

- 組織活動が持続可能であるように、事業の適正規模を検討するとともに、寄付などを通じた新たな資金調達方法を検討します。
- 協会運営に関わる私たちが「やりたいこと」「やらなければならないこと」の違いを認識し、お互いに支えあい、持続可能な組織運営が継続して行えるように、運営のやり方を検討・確立していきます。

##### 2) 拠点運営のサポートの充実(システム管理委員会)

- 未統制・未整備のデジタル環境を整備し、セキュリティを強化するとともに、拠点運営の負荷分散・権限の明確化を図ります。

##### 3) 各種制度改正への対応(理事会、事務局)

- FAJとしての活動を維持・向上させるために、NPO法人に関連する各種の制度改正への対応を行います。

## FAJ ビジョン 3.0

### タテ型社会の常識からヨコ型社会の知恵へ (社会の視点・ファシリテーションの視点)

- ① 社会を構成する多くの人が、**対話と議論の手法や知恵**を自ら学び活用し、協働している。
- ② ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合いともに歩む**ヨコ型社会**を目指して変革をはじめている。

### 強い意志を持ったイノベーターのネットワークへ (ファシリテーターの視点・FAJの視点)

- ③ 社会や組織の課題を解決したいと願う挑戦的な**イノベーター**が、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
- ④ 自覚と責任あるファシリテーターの**ネットワーク型組織**が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。

## ビジョンを実現するためのFAJの行動

- ① 社会を構成する多くの人が、対話と議論の手法や知恵を自ら学び活用し、協働している。
  - FAJは、個々の思いを機敏に具現化して、着実にイノベーションへとつなげる集合知を創生する。
  - FAJは、課題解決や変革を必要としている組織・コミュニティにファシリテーションのスキルとマインドを届ける。
- ② ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合い、ともに歩むヨコ型社会を目指して変革をはじめている。
  - FAJは、社会に深く根を張る上意下達型・ヒエラルキー型の思考様式と行動様式を打ち破り、多様な人々が自律的につながるネットワーク型組織の成功事例を、身をもって実現する。
  - ファシリテーションが生んだ成功事例を集め、その有用性や応用可能性、社会に与えるインパクトをアピールする。
- ③ 組織や社会の課題を解決したいと願う挑戦的なイノベーターが、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
  - FAJに集まる野心的なファシリテーターが、国際的紛争や新しい分野など、それぞれの現場に向き合って耕し、その課題解決に挑戦し、成果を上げている。
  - FAJに集まるファシリテーターが、ヨコ型社会における新しいリーダーシップに挑戦している。
- ④ 自覚と責任あるファシリテーターのネットワーク型組織が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。
  - FAJは、地域や特定分野での実践的な活動を支援する拠点やプロジェクトを臨機応変に立ち上げ、自覚と責任を持って変革を進める人々を輩出し、それらの場をつなぐネットワークのハブとなる。
  - FAJは、ファシリテーションに関する知識と経験を深めるため、研究と試行を重ね、地域や分野、世代を超えて実践者が刺激し合う相互研鑽の場となる。

## ミッション

ファシリテーションの普及を通じて、ビジネス分野においては、生産性・モチベーション・リーダーシップ力を向上させ、社会的な分野では、市民活動・地域経営・国際交流の質を高め、教育の分野では、多面的な視点を持つ人材を育成していくことをめざしています。

ビギナーからプロフェッショナルまで、ビジネス・まちづくり・NPO・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展をめざして、幅広い活動を展開していきます。

以下、計画の詳細について記載します。

### 【A】特定非営利活動にかか事業

#### 1. 調査・研究事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
北海道支部 定例会	通年 (11回)	北海道	33名 (3名×11回)	会員330名、一般33名 (会員30名＋一般3名)×11回
東北支部 定例会	通年 (12回)	宮城	24名 (2名×12回)	会員180名、一般60名 年間12回
東京支部 定例会	通年 (11回)	東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬等	220名 (20名×11回)	会員740名、一般480名 (会員80名＋一般10名)×8回 (一般100名)×4回
中部支部 定例会	通年 (11回)	愛知	66名 (6名×11回)	会員440名、一般77名 (会員40名＋一般7名)×11回
関西支部 定例会	通年 (11回)	大阪・京都・兵庫	132名 (12名×11回)	会員550名、一般88名 (会員50名＋一般8名)×11回
中国支部 定例会	通年 (11回)	広島	33名 (3名×11回)	会員132名、一般33名 (会員12名＋一般3名)×11回
九州支部 定例会	通年 (11回)	福岡	33名 (3名×11回)	会員330名、一般66名 (会員30名＋一般6名)×11回
サロンサポート	—	地域型12カ所 テーマ型5カ所	—	—

#### 2. 教育・普及事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
公開セミナー	通年 (46クラス)	東京・大阪・愛知・広島・福岡等	230名 (5名×46クラス)	会員368名、一般552名 (会員8名＋一般12名)×46クラス
事業検討	未定	—	—	—

### 3. 支援・助言事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
ファシリテーション サポート委員会	通年 (50回)	全国	100名 (2名×50回)	一般1,500名 (一般30名×50回)
災害復興委員会	通年 (30回)	全国	60名 (2名×30回)	一般900名 (30名×30回)

### 4. 交流・親睦事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
グローバル ファシリテーション 推進委員会	10月	ストックホルム	5名	不特定多数
	未定	静岡	-	-
	未定	福岡	-	-
	未定	東京	-	-
	未定	札幌	-	-
	未定	仙台	-	-
	未定	大阪	-	-
	未定	広島	-	-

### 5. その他の総合的な事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
広報委員会				
ニューズレター	3回	全国	24名 (8名×3回)	会員1,400名
ウェブサイト	通年	全国	20名	不特定多数
メーリングリスト等	通年	全国	20名	会員1,400名

### 【B】その他の事業

実施しません。